

紺碧のオホーツク海を見おろし



知床硫黄山新噴火口登山

第50回「森林レクリエーション・in知床」『知床硫黄山新噴火口登山と植物観察』を8月19日(木)に行いました。

今回のイベントは、真夏の青い空と紺碧のオホーツクブルーの海を見おろし、今なお噴気活動の続いている新噴火口への登山です。

当日の天候は、青空が広がる晴れた登山日和となり、参加者は北見市、網走市、斜里町から44名が参加しました。

知床森林センターを出発したバスは、一路知床半島へと向かい、

車内で登山での歩き方、山でのマナーと注意事項、熊に会った時の対処方法などについて説明を行いながら登山道入口に到着し、いよいよ登山の開始です。

コースは、硫黄山登山全行程の3分の1程度の新噴火口までの登山で、スタートから急な登りが始まり、参加者はゆっくりと息を整えながら慎重に足を運びました。周囲は樹木のトンネルでミスナラ・ミヤマハンノキ・ダケカンバの低い木が覆い被さり、木陰の中を心地良くうっすらと汗をかきながら登りました。途中、シラタマノキの可愛い白い実やゴゼンタチバナの赤い実が参加者の目を和ませ、知床硫黄山の硫黄採掘の歴史、森林浴は人



眼前に広がるオホーツク海

間の心や体に良い影響を与えてくれること、森林の中は樹木が直射日光を遮り葉から水分を蒸発する作用により涼しく感じる事等について解説がありました。

コースの半分程を歩くと景色は開け、右手眼下にはカムイワッカの沢、振り返れば紺碧のオホーツク海の雄大さに、しばしの登りの辛さも忘れ参加者みなさんは眼前に広がるオホーツク海のパノラマに胸を躍らせました。コース終盤には堆積する岩の塊を四肢を使って登る箇所もあり、スリルを味わいながら歩きました。ここからは山の様子が変わりハイマツやミヤマハンノキ・ダケカンバの背が低くなり視界が開け、足元に注意しながら火山礫が堆積するガレ場を慎重に登りきり新噴火口へ到着。

過去の激しい噴火が稜線の西側の一角を吹き飛ばし、巨大な鍬で削り取ったような形になり、水蒸気をあげています。流す汗を拭きながら昼食をした後、周囲を散策したり噴火口を覗いたり一時の休憩を楽しみ、新噴火口で記念撮影をした後下山を開始し、目の前に広がるオホーツク海を望みながら無事に登山道入口に到着しました。

今日の天候は最後まで晴天で、みなさんも満足し充実をしていた様子でした。



新噴火口で記念撮影

緑と花の市民の会 現地研修

9月9日(木)に、北見市の「緑と花の市民の会」の一行13名が現地研修会として知床を訪れました。

当会は、緑と花があふれる住み良いまちづくりを目的に、21世紀にむけたみどりづくりを展望し毎年、植樹祭や研修会を初め緑と花に関わる事業を先進的に展開されている会です。



知床の原生林を見学

今回は年間事業の一つである、現地研修会として知床の原生林を見学することで来訪されました。

午前中は、当会員で樹木医である鈴木順策氏により、斜里町朱円小学校で外科手術を施した桜の木を見学。午後からは知床国有林で、当センターがエゾシカ食害調査を行っている箇所や370年前から地下水などの影響で地滑りを繰返してきたため大規模な治山工事を行った箇所を見学され生態系の仕組みや自然の力に驚かされていました。



治山工事箇所を見学

北海道で勤務は初めてです よろしくお願ひします

都留 浩明

8月に四国の愛媛県からやってきました北海道で勤務するのは初めてです。よろしくお願ひします。

「知床」とは緑があるようで、以前、新築間もない知床森林センターを林業白書に掲載し業務内容も紹介したことがありますし、その数年前には新婚旅行でカムイワッカを訪れたこともあります。さて、前任地の国有林は四万十川の源流です。「日本最後の清流 四万十川」と聞いてどんなイメージをもつでしょうか。カワウソが住んでいるかもと言われているのですから広葉樹の森が繁っていると思いますか。

実は周囲の森林の殆どは、スギやヒノキの人工林です。人が森林を手入れすることによって清流

を保っている良い事例です。

戻って、知床の森はどうでしょうか。この間までの私のようによく知らない人は、人も住まない原始の森を思い浮かべるのが大方でしょう。

しかし、現実には人の住んでいる町に近く長い歴史の中で、人の暮らしと密接に関わっている森林です。これからは知床の森林やそこに住む動物とのつきあい方を、考えなければなりません。

そのためにも一日でも早く知床の自然の良さを理解し、それを国民の皆さんに伝えることができるようになりたいと思っています。

